

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100488		
法人名	有限会社 メープル		
事業所名	グループホーム もみじ苑		
所在地	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第1地割1番地16		
自己評価作成日	平成21年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371100488&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階		
訪問調査日	平成21年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの利用者がそれぞれのペースで自由に行動し、歌やだらん趣味活動等々を行いながら毎日笑顔で過ごしておられます。
 天気の良い日は苑周辺の散歩は勿論、できる限りそれぞれ一人ひとりの馴染みの場所での買い物やドライブに出かけるようにしています。
 地域の保育園や小学校等、お互いの行事に参加し合い、また市・地域の方々の協力を受けながらイベント等にも参加し交流しております。(地域とのつながりを大切にしています)
 施設内の研修開催や外部研修会への参加等を積極的に行い、介護技術の向上に向け日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自分たちが時間をかけて作り上げた理念が、ケアに活かされている。センター方式に切り替えたことにより、よりよく一人ひとりの情報が分かりやすくなり把握できている。職員も利用者をもっと知りたいという気持ちを強く持つようになり家族の力が大なので日常の様子を写真を添えながら伝え、情報を得よう努力しケアプランに活かすよう支援している。振興住宅地域でもあり今後は更に多くの方にグループホームのことを理解して頂き、安心して暮らせるよう目標に向かって取り組みされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で作った理念を常に念頭に入れ、共有し、ミーティング・送り等、日々のケアの中で再確認し 実践している	理念は昨年職員全員で見直しを行った。ケアの基になるよう考え分かりやすくしている。月2回のミーティングや勉強会(笑顔とは...)を行いその実践に向けて取り組んでいる。ギター演奏のできる利用者が理念に曲をつけた「もみじ苑の歌」を作った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所との日常的な挨拶やおすそ分け、町内会・保育園・小学校との相互の行事参加等で交流を深めている 地域会議への参加もしている	夕涼み会には、地域やボランティアの方々のお手伝いを頂いたり、保育園でギター演奏したり、小学校の行事は生徒が利用者一人ひとりに招待状を持ってきたり、交流を深めている。又、平田地区の地域をよくする会「地域会議」に参加している。	地域会議でグループホームの理解や見学を呼びかけている。広報もみじ苑で情報を発信したり、特に町内会13世帯には入居者と一緒に配布しているが行事が減っていく中で現在の活動を継続することを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や当苑行事・苑見学・もみじ苑だより等を通して、認知症を理解し、接してもらえるように努めている SOSネットワークに協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、会議形式だけでなく、勉強会や、会議メンバー・全スタッフ・全利用者との交流会も行い、その中から様々な意見や要望・アドバイスを頂き、その内容をミーティング等で話し合い、サービス向上に活かしている	会議形式だけにとらわれず、いも煮会、心肺蘇生法講習会、避難訓練等を運営推進会議に位置付けている。家族の力が大なので家族全員が委員になっており、様々な場面で意見を出してもらえぬ雰囲気作りをしている。認知症の理解を深めて頂くための努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議・地域会議の参加・定期的訪問で、近況報告・情報交換・相談をしている	市の担当者は、運営推進会議、地域会議に出席し、事業所も月1回市へ訪問して「行政地域連絡メモ」により情報交換や、相談を行っており、職員の周知徹底を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという基本姿勢で、常に利用者に目を向け、話を聞き、安全確保をして、自由な暮らしを支援できるように話し合っている	基本的に拘束をしないケアを実践している。玄関は夜間のみ施錠で午後7時30分～翌朝4時ごろまでとしている。個室には鍵はつけていない。敷地の関係上車の往来もあり、安全面に注意しながら自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内外で虐待があってはならないことを認識し、些細であっても不適切と思われるケアを見逃すことのないように、スタッフ間で注意を払い防止に努めている 高齢者虐待防止関連法の苑内勉強会(10/15予定)		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム もみじ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方が現在いない為、学ぶ機会が少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時は本人・家族と話し合いをし、重要事項説明書等、十分時間をかけ説明し、理解・納得していただいている 改定時も家族会等面談等で説明し、理解納得していただいた上で同意書を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の日常生活の中で、利用者や家族が意見・要望を話しやすい雰囲気作りをしている 運営推進会議のメンバーに家族全員が入っており気軽に意見要望を話している	介護相談員を年4回程度受け入れている。 家族と一緒にというねらいで運営推進会議の委員は家族全員がなっており、又「家族の連絡簿」で要望、意見があれば朝夕の申し送り、ミーティングで改善に向けた話し合いが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り・月2回のミーティング・個人面談で、意見・提案を聴き反映させている	管理者と代表者は別々に職員の個別面談を年2～3回行い意見を聴く機会を設け、日頃からコミュニケーションをはかるよう心がけている。職員体制も安定しており、なじみの関係が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理講習等に参加し、労働条件改善に努めている また、スタッフの要望に応じて、環境整備にも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外の研修を受ける機会を確保している 外部研修はスタッフの意思を尊重し、できる限り参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会や同業者の研修に参加し、交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問し、面談を行い、不安や要望を聞いている また、苑も自由に見学して頂き、雰囲気も見て頂いている 入居後も会話を多くし不安や要望を聞き、安心できるようにしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、悩み・不安・要望を聞き、安心して利用できるように努めている 入居後も、相談しやすい関係づくり・雰囲気作りに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、必要としている支援を見極め当苑での支援内容を説明している 必要に応じては、他施設や他のサービスを紹介している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一人ひとりできる事や得意なことを一緒に行い、お互い助け合い、学び合う事で、感謝の気持ちを伝えあいながら、支え合っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会等で、本人にとっての家族の重要性を説明し、理解してもらい、本人が望む暮らしができるように、相談・協力し合っている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、友人・知人等の面会や外出を受け入れたり、馴染みの場所へ散歩や買い物・ドライブに出かけている	利用者には平田地区の人はいないが昔の記憶の場所へ行ったり、昔の職場の仲間が訪問されており、師弟関係でも教え子から手紙を頂いている。お盆には日帰りの墓参りや外泊するなど継続できるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日々把握し、スタッフが関わり、コミュニケーション作りに努め、楽しく過ごせるようにしている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人やご家族と会った時には挨拶をしたり様子を聞いている 他施設に入所された方には面会に行っている 相談があれば応じていく			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、会話・表情・行動を一つ一つ観察し、希望や意向を引き出すようにしている	個人の基本情報(センター方式)はもとよりケース記録とは別に「気づき、出来事記録」に利用者の日々の暮らし方や会話等が詳細に記載され、把握に努めケアに活かされている。		日々変化する利用者に対しての「その人を知る大変さ」を手探り状態でありながらも、スタッフ全員で満足できる介護を目指している。更に力量を高めるため研修の継続を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、本人から聞いたり、本人が分からないことは 家族から聞き、把握するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの特徴をつかんで、その日の心身状態をスタッフ全員が把握し、一日の生活を見守り、申送り等で 情報を共有している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望・意向を重視した上で、家族の希望・意向も聞き、作成している	担当職員を中心に利用者・家族、職員で話し合っ、ケアプランは3カ月に1回作成されている。「家族の連絡記録」や日々の暮らし方などにより柔軟な対応がなされ、達成可能な具体的な目標づくりを心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録・申送りノート・気づきノート等に記入し、全スタッフが情報を共有し、活用している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食・外出・外泊等、要望に応じて対応している			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム もみじ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(大正琴・音楽リズム・民謡等)の訪問や、小学校・保育園との相互交流 ・美容院出張サービス ・SOSネットワーク登録		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している 定期的に歯科医の訪問検診を受けている	かかりつけ医を受診している利用者は半分くらいである。基本的には家族が同伴することとなっているが、家族の都合により職員が行くことが多く「家族の連絡記録」で情報交換をしており、健康状態の把握につとめている。歯科医の口腔内チェックを年2回の予定で訪問検診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、看護師に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談しながら、担当医と情報交換し、話し合いをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について家族と話し合いを行い、当苑でできる事・出来ない事を説明している	現在は看護師の採用もないし、入浴の設備的な問題、ベッドの問題もあり、利用開始する際に特別養護老人ホームの申し込みをするように話をしている。家族は看取りを希望しているので職員もその方向に添いたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、消防署の方々に来ていただき、心肺蘇生法やAEDの訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行うと共に、地域や市の消防・町内会に協力をお願いしている	地震と災害の違いなど避難訓練を年2回実施している(1月、8月)。今年は消防署の都合により9月実施の予定である。地域、消防署、地元の消防団の協力が得られるよう体制づくりに努めている。スタッフのみでも年2回実施。食糧飲料水も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄支援・居室入室時、常に注意を払い、誇りやプライバシーを尊重した、言葉遣いや対応をしている	入浴や排せつ等は、さりげない言葉かけや見守りで支援している。居室に入る時も必ず本人に声掛けするなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、気軽に話せる雰囲気を作り、利用者主体の自己決定や行動ができるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがそれぞれのペースで生活している 散歩等希望があれば、一緒に出かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、希望者のカットをしている 馴染みの美容院を利用している方もいる イベント時は、化粧をしたり、マニキュアを塗り、おしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を取ったり、利用者の得意料理をメニューに取り入れ、利用者スタッフと一緒に調理・片づけをしている	食事のメニューは決めておらず毎日希望を聞いている。利用者の得意料理もあり、それぞれ一人ひとりができることを職員と一緒に作り、一緒に食事をし、後片付けもされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌で、三食と午前・午後の間食の残物・残量を確認している 水分量のチェックも行っている 食事量や水分量の少ない方は、個別に摂取できる物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている 義歯を使用している方は、夕食後ポリドント消毒をしている 定期的な口腔検診も行っている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム もみじ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、声がけ・誘導をしている	一人ひとりの排泄チェック表により、声掛け誘導している。現在おむつ使用はなくなり、リハビリパンツ4名のみである。夜間についてはおむつからリハパンになった人や安眠のための足浴、量の多い人の工夫や検討がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄につながるように、食事に工夫したり、水分量のチェックを行い、水分量が不足しないようにしている 体操をしたり、散歩や日常生活の中で、体を動かす機会を作り予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望を聞きながら、毎日入浴している入浴を楽しめるよう、季節感あるお風呂(柚子湯・菖蒲湯等)や入浴剤を入れている	毎日全員が入浴をたのしみにしている。午前と午後バイタルを行い利用者毎に医師からの数値を基に入浴支援をしている。入浴は自分でやれることは自分でするようにして、背中、頭等は職員がお手伝いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間を決めず、一人ひとりのペースに合わせている 日中もそれぞれ居室で休めるようにしている 夜間、良眠できるように、就寝前に足浴している利用者もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容はファイルに綴じてあり、いつでも確認できるようにしている 服薬準備は、スタッフ2名で二重の確認を行っている 薬の変更があった場合は、申送り、申送りノートに記入し、様子観察を行い、ケース記録等に記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を大切に、得意な事・できる事(料理・掃除・洗濯等等)を自分の役割としている ギター演奏・歌・習字・裁縫・畑仕事等の趣味活動をして楽しんだり、気分転換に散歩・ドライブ・買い物に出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は、散歩やドライブに出かけている 本人より希望があり、民謡ショー・馴染みの神社・自宅付近に出かけたり、家族の協力により墓参りに出かけている 地域の方々の協力で、釜石大観音参拝や、遊覧船に乗ったりしている	散歩は雨降り以外は毎日出かけ、ドライブで海岸に行ったりしている。のど自慢を見たいということでスタッフ全員で申込はがきを出し、見に行ったりしている。民謡ショー、釜石大観音、遊覧船等地域や家族の協力を得ながら積極的に外出支援をしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム もみじ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自のお小遣いは、苑で管理している 買い物の際は財布を渡し、支払ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人といつでも電話できるようにしている 手紙やはがきが届いた時は、スタッフがサポートし返事を書いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節を感じる飾り付けを利用者とスタッフで作し、飾っている	季節感が感じられる設えやホットなぬくもりが伝わる職員の手作り、利用者の手作りのタペストリーや利用者の方が書いた歌詞、毛筆の作品などが飾られている。ギターの得意な利用者の演奏でみんなで歌を歌い、優しさとおたたかさに包まれて楽しく、くつろぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の他、リビングにあるソファ・和室やサンルーム・ウッドデッキの椅子で、それぞれの利用者が好きな所に座り、一人で過ごしたり、気の合う同士で会話をしながら過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より本人の馴染みの物(家具・仏壇・テレビ・写真・椅子・ギター等)を持ってきてもらい、居心地良く過ごせるようにしている	ベッドは備えつけのものであるが、居室には仏壇やテレビ、椅子やギター、写真など個々に馴染みの物が持ち込まれており、安心感がもてるよう工夫と配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、トイレやお風呂場には名称を張り、トイレの中には流し方や水の出し方を紙に書いて貼っている 機能障害のある利用者への対応として、手摺や蛇口・椅子等に赤いテープを張り、使用しやすく工夫している		